

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成28年4月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発 行 日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

診療情報管理士の働きは、「いい病院」につながります

西村 茂

北九州湯川病院 院長

今年は、桜も早く咲き、お花見も盛況なようです。

さて、4月といえば、周りにはたくさんの「新人さん」を見受けます。もしかしたら、あなた自身がフレッシュマンという方もおられるでしょう。私たちも、心機一転、新たな気持ちで頑張りたいものです。

病院も年度が替わり、さてこれからという時ですが、診療報酬改定もあり、病院も対応に追われ、大変な時期です。昨今のご時世、これから、ますます高齢化社会となつて、戦後のベビーブーム世代が後期高齢者になる2025年や、その後も若い世代が高齢者を肩車で支えなければならなくなる2050年の問題を抱えて、医療情勢はこれからも大きく変動していき、病院のあり方もさらに変わっていくでしょう。

しかし、その中でも、「いい病院でありたい、ありつづけたい」と、思う気持ちは大切であると思っています。いろいろなメディアに発表されている「いい病院」を目にしますが、その評価基準や指標には様々なものがあり、手術数、あるいは症例数などの数値だけで判断して、信じていいものかどうか、思案するところです。

病院の評価の一つに、日本医療機能評価機構による病院機能評価事業がありますが、通信教育のスクーリングに参加していただいている受講生の皆さんに手上げで答えていただくと、当初、そんなに多くはなかったものが、年々、増えてきて、最近はやや頭打ちの感じがありますが、約半数の医療機関が認定を受けているようです。それに比して、電子カルテ、あるいはオーダリングの導入医療機関は、年々、増え続けています。しかも全国平均で示されている比率よりも随分と高いような感じを持っています。客観的評価を受けて、少しでも改善していこうと考えている、そのような「いい病院」だからこそ、「いい人材」を求めており、それに自らを高めようとする皆さんのモチベーションが合致して、資格取得に向けて頑張っておられる方が多いものと思います。

病院機能評価も少し前のバージョン・シックスの時代には、診療情報管理に関して、より厳しく人員数、資格者、運用状況などを求め、年間の退院患者2千人に診療情報管理士1名の配置が基準といわれて、各病院もその確保に躍起になっていました。平成25年から3rdG(サードジェネレーション)となり、平成28年からは、そのVer.1.1が運用されています。診療情報管理に関して、求められていることの根本は変わりませんが、その評価の有様は少しずつ変遷してきています。量の管理も必要ですが、質の管理も大切です。また、診療報酬算定要件を充たして、コンプライアンスを保つこと(法令遵守)、それは当たり前のことですが、診療情報管理士は「カルテの番人」的な役割だけではなく、今後はさらに、臨床指標や多くの資料データから抽出して、病院の立ち位置の分析、今後の方向性の提案など、病院運営のかなめとして大切な存在となってくるものと思われまふ。それに応ずることのできる診療情報管理士となるべく、資格取得後も続けて勉強していくべきものと考えますが、まずは、その卵である皆さんには早く資格を取得するべく、一生懸命頑張ってくださいと思います。

